

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2009年7月

平成20年度規格部会報告

規格部会（ISO/TC 61, ISO/TC 138 及び電気材料安全・規格）は、日本工業標準調査会（JISC）標準部会策定の「平成18年度標準化政策」、経済産業省策定の「国際標準化戦略目標（平成18年11月）」及び「化学分野における国際標準化アクションプラン（平成21年4月改訂）」に則り、関係機関・団体・企業との一層緊密な連携のもと国内外の標準化活動を推進している。

ここでは、平成20年度の活動実績および平成21年度の活動計画を紹介する。

1. 国際幹事国引受け

現在、4件の幹事国を引き受けているが、内容の充実を図りながら引き続き遂行していく。今後、各企業・団体会員への標準化活動への一層の協力も得ながら、コンビナー人材の発掘等を進め、キーSCの幹事国獲得へ向けての戦略・戦術も模索していく。

2. 国際幹事国活動

TC 61/SC 11（プラスチック製品）、SC 12（熱硬化性樹脂）、SC 13（複合材料及び強化用繊維）およびTC 138（プラスチック管、継手およびバルブ類）の国際幹事として、規格開発プロジェクトの円滑な推進を進める。

今年度は、ISO/TC 61 国際会議は、イタリア・ローマ（10月3日～10月9日）で、ISO/TC 138 国際会議は、フィンランド・ツルク（平成21年9月29日～10月2日）で開催される。日本が議長を務めるSC 11、SC 12、SC 13 及びTC 138 の会議の円滑な開催・運営を図る。

3. 国際標準開発活動

平成20年度の日本発の国際提案では、以下の1件の継続テーマ進展を図ってきた。

・P P S材料規格の制定（継続）

本件は、平成19年度に新規提案したものであるが、通常より1年早く規格成立が見込まれ、平成20年度で終了する。平成21年度は、新たに以下の新規テーマ1件に取り組む。

・プラスチックまくらぎ（新規）

本件は、鉄道用まくらぎに関するJIS E1203:2007を基礎としてISO/TC 61に国際提案し、2008年に新規テーマとして採択されたもの。

4. 国際標準共同研究開発事業および調査研究

①プラスチックリサイクル

はじめてのプラスチックリサイクルに関する国際規格提案を円滑に推進する。3件の提案を推進中であり、再生PET原料の品質分類規格および試験方法規格はCD投票中、PETシート製品規格は新規提案の投票中であり、予定通りに進捗した。本年度も、各規格を着実にステップアップさせていく。

②混合ポリオレフィンの標準化

平成20年度から始まった研究開発事業であり、これによって、品質の標準化を可能とし、停滞していた当材料のリサイクルが加速され、国際的な環境ニーズに貢献することが期待される。平成20年度は、国内市場の調査および再商品化PE/P P混合割合による品質の調査を進めた。平成21年度は、引き続き内外のポリオレフィン再生材情報収集および再生材の組成定量法を検討し、規格素案を作成

する。

③R P F の JIS 作成調査研究

プラスチック廃棄物の再商品化手法の一つであるR P F（プラスチック・紙固形燃料）に関するJIS原案作成調査を行い、平成21年度は、残された課題の詰めを行い、規格原案を完成し、提出した。本事業は平成20年度で終了した。

5. 有効なJISの絞込み徹底

JIS策定における品質向上、効率的制定を目指し、JIS制定必要性の厳選化とJIS原案品質レベルアップを継続していく。

平成20年度は、以下のJIS原案作成委員会において、区分A（平成20年4月～平成21年3月）3規格、区分B（平成21年8月～平成21年7月）3規格および区分C（平成21年12月～平成21年11月）2規格の合計8規格に取り組んだ。

区分A 3規格（制定2件、改正1件）

- ①試験片の形状及び作製 制定1件
- ②強化プラスチック試験板 制定1件
- ③ポリアミド樹脂 改正1件

区分B 3規格（制定3件、改正0件）

- ①生分解性プラスチック 制定1件
- ②ウレタン原料試験方法 制定2件

区分C 2規格（制定1件、改正1件）

- ①燃焼試験法 改正1件
- ②接着剤試験条件 制定1件

平成21年度は、通期で約10件程度のJIS原案作成を見込む。